

福生市子ども・子育て支援事業計画に向けた事業所ヒアリング結果について

1 ヒアリング概要

先行して実施した事業所向けアンケートの調査結果とともに、幼児期における保育・教育の質の向上と支援体制の確保につなげるため、子育て支援者からみる市民の子育てへの不安や困っていること、子どもたちの状況等について、ヒアリングを実施しました。

- (1) **実施期間** 平成 26 年 4 月 16 日～6 月 18 日
- (2) **実施施設** 26 施設（保育所 9、幼稚園 2、学校 3、学童 9、児童館 3）
- (3) **実施職員** 42 人（保育所・幼稚園の園長・主任保育士・担任 20、児童館館長 3、学校長、担任 7、学童クラブ職員 12）

2 ヒアリング時の意見のまとめ

(1) 家庭における子育て

- ・相手の意見を聞くことができない、異年齢の子どもとの違いがわからない子どもが多い。
- ・ここ数年、おむつが外れていない子どもや一人でトイレへ行くことができない子どもが多く、トイレに付き添う時間が多い。自宅ではおむつを使用している子どもが多いことが原因と考えられる。トイレができる子どもでも、長期休暇の後で戻ってしまうこともある。
- ・生活習慣は乱れている。規則正しい生活が難しいようで、保護者に合わせて遅くまで起きていたり、保護者の出勤に合わせて朝バタバタと起きて朝食も食べずに来ている子どももいる。
- ・子どもに合わせた生活ではなく、保護者に合わせられている子どもが多い。
- ・基本的な生活習慣ができていない子どもが多い。夜更かして朝食を食べていない子が多い。午前中に力が出なかったり、少しのことでもきれてしまう子どもいる。
- ・偏食や好き嫌いのある子どもが多い。
- ・アレルギーをもつ子どもが増えている。
- ・子どもの月齢に合わせた食事や睡眠、生活に関する保護者の知識が乏しい。
- ・パソコンで調べて子どもの状況を判断する親が多く、親世代から子育てを学ぶということがない。
- ・誰かに相談できる保護者もいれば、どこにも相談できず閉じこもる保護者がいる
- ・保護者の言葉づかいが乱れていることから、子どもたちも言葉づかいが悪くなっている。
- ・身の回りの整理が苦手な子どもが多い。保護者が多忙なことから、手をかける時間が取れないことから考えると考えられる。
- ・子どもの言いなりになって、言い聞かせることやしつけが少なくなってきた。
- ・着替えなど身の回りのことを自分でできるよう励ましているが、自宅では親がやってしまうことが多い。
- ・子どもが変化したというよりは、保護者の関わり方の影響があると思う。

(2) 家庭、地域における教育力

- ・経験不足の子どもも多い。様々なことを経験するチャンスを与えるようにしている。
- ・保護者の意識を高めなければ教育力が上がらないので保護者への支援が重要であり子どもだけではなく、保護者の自己肯定感を育てることも必要となっている。
- ・各家庭にばらつきがある。教育に積極的な家庭から、教育の前に生活習慣の見直しが必要な家庭まで差がある。生活習慣の見直しが必要な家庭を底上げし、教育力というところまで持ち上げなければならない。
- ・学力に対しての保護者の関心がなかなか高まらない。
- ・日本の伝統行事を家庭で行っていない人が多い。日本の良い点を伝えることで子どもたちも少し変わると思う。
- ・その年齢に身につけるべきことを教えることができるとうい。
- ・地域のボランティアとの交流を通して子どもの生きていく力を身につけられるようにしている。
- ・大人を信頼する、愛着が問題。

(3) 幼稚園、保育園、小学校の接続

- ・小学校の生活を体験することが必要だと思う。(小学校との交流はしていない)
- ・園と小学校の交流はない(現在は小学校からの聞き取り調査のみ)。機会があれば就学前に園児が小学校がどのようなところか知るため、見学に行きたい。卒園した子どもたちの様子も知りたいので、小学校の公開授業へ行ってみたいがなかなか行くことができない。
- ・小学校に受け入れる体制があれば訪問してみたいが、卒園児の学区が違うので、学区の小学校に訪問ができるとよい。
- ・就学前に不安になる親御さんも、園内で小学校の先生による巡回相談をすることがあるので相談する機会がある。

(4) 外国籍児童、保護者への対応

- ・外国籍の保護者とのコミュニケーションが取りづらい。
- ・実際に物をみせて一緒に動いていてその時はわかったと言うが、実際には家に帰られるとわかっていないという行き違いが日常的にある。
- ・英語だけではなくて、いろいろな外国籍の方もいるので就学支援でも話ができない。
- ・書面になると重要なのか重要ではないかがわからない。

事業所ヒアリングの主な意見

[保育所や幼稚園]

- ・最近の家庭の傾向として、子どもに合わせた生活ではなく、保護者に合わせた生活になっている状況が多く、そのため、夜遅くまで起きていたり、朝食も食わずに来ていたりする子どもがいる。
- ・保護者自身が、子どもの月齢に合わせた食事や睡眠、生活に関する知識が乏しくなっている。
- ・パソコンで調べて子どもの状況を判断する保護者が多く、親世代から子育てを学ぶということがないことも影響している。
- ・子どもが変わってきているというよりは、保護者の関わり方が変化しているのではないか。
- ・意欲を持たない子どもが増えており、その理由として家庭の中でいろいろなことに興味を持って経験をしていないことや、家族間のコミュニケーションの問題も影響している。
- ・各園において、異年児交流から子ども同士の関わり合いを身につけることや、畑での野菜作り、掃除などを通じ、家庭ではできないことを経験できるよう積極的に取り組んでいる。
- ・最近の保護者を見ていて、子どもに関心がない保護者が多くなっていると感じる。園としては、年齢に合ったしつけや遊び、教育をしている中で、子どもの育ちを理解してもらえようような情報発信をしているが、伝わらないと感じることも多い。
- ・様々な不安や悩み事を保育士に相談できる保護者もいれば、どこにも相談できずに閉じこもってしまう保護者もいる。
- ・小学校との交流については、実施しているところでも、聞き取り調査のみで、子ども同士の交流については、ほとんどの園が実施していない。交流については前向きで、機会があれば、就学前に園児が小学校をどのようなところかを知るためにも、行っていきたい。
- ・外国籍が多い園だと、保護者とのコミュニケーションにおいて、ほんとうに伝えたいことが伝わらないという課題を感じている。
- ・子ども・子育て支援が、保護者が自分の時間を確保するための支援ではなく、子どもたちのための支援であってほしいと強く感じている。

[学童クラブ、小学校、児童館]

- ・自分の意志をうまく伝えられない子どもが多くなっていると感じる。コミュニケーションのはじまりは挨拶だが、世の中全般においては、不審者を避けるため、知らない人とはしゃべらない風潮がある。
- ・大事に育てられているのを感じられると子どもの心が安定し、自尊感情というものにつながる。
- ・親を親として育つ場所が必要。日本には4つの「離すな」という言葉があり、赤ちゃんの時には肌を離すな、歩き出したら目を離すな、大きくなったら心を離すな、目を離すな、このような、親御さんに子育てのポイントごとに教えていくことができないか感じている。子どもと一緒に活動する中で体験して分かっていく、親が親として育つシステムが必要。
- ・地域の人たちともう一段階、二段階つながるためのキーパーソンがそれぞれの地域に必要。